

樽づくりで森づくりにも貢献。 地元産ミズナラ材を利用したウイスキー樽の製造

昭和22年創業の山崎工務店は、長年の住宅建築で培った技術や知識を活かし、現在、国内でも数少ない樽工房として、ウイスキー樽の修理・製造販売に取り組まれています。

国産ウイスキー「ジャパニーズウイスキー」の世界的な人気が高まる中、2019年、井波地域において国内初のボトラズ事業（ウイスキーの原酒をメーカーから購入し、樽で熟成させて独自販売するもの）がスタート。



山崎工務店が製造する地元産ミズナラ樽「三四郎樽」

2022年には最大5,000樽を貯蔵できる熟成庫が完成し、山崎工務店が修理・再生したウイスキー樽も熟成庫に納められています。

目下の目標は、地元のミズナラ材を使用したウイスキー樽の製造です。現在は鏡板の製造に留まっていますが、2024年中には体制を整え、側板も含めてまるごと地元ミズナラ材を使用した新樽が完成する予定です。



ボトラズ「T&T TOYAMA」の拠点となる熟成庫

～薪ボイラーの導入～

山崎工務店では2023年に南砺市のペレットボイラー等設置事業補助金を活用し、薪ボイラーを導入。薪ボイラーで作った熱を、ウイスキー樽の製造に用いるミズナラ材の乾燥や加工に活かされています。

ボイラーの燃料はミズナラ材の端材などを利用。ボイラーから生じる燃焼灰や炭は、土壌改良材として畑に散布するなどし、資源を無駄なく活用されています。

地元ミズナラ材を使った樽製造は、薪ボイラーでの熱利用も含めて、森林の循環を促し、地域の森づくりにも大きく貢献しています。山崎工務店の今後の更なる発展、そして地元産ミズナラ樽で熟成されたウイスキーの完成にも期待が高まります。



ボイラー機種：ATOウッドボイラー N-350NSB
設置年月：令和5年7月 導入費用：約260万円